

あけましておめでとうございます。寒い日は続きますが、まばゆいほどの晴天に恵まれたお正月、「行動制限のない」久しぶりの休日をご家族で楽しく過ごされた方も多いかと思えます。私も、妙見さんに初詣に行きましたが、ものすごい行列でおみくじだけ引いて帰ってきました。おみくじは「大吉」で、記念に財布に入れて持ち帰りましたが、これで1年分の運を使ったかと、今からむしろ不安でなりません。露店もたくさん出ていて、6個500円の大きなたこ焼きなどとても美味しそうでしたが、年末に熊日のインタビューで「県民一人一人が感染対策の意識をもって」などと偉そうなことを言った手前、買い食いには控えました。

遠方からの帰省も多かったと思いますが、せっかくの機会でも、会いたい方が御入院中の場合には面会していただけませんでした。申し分けありません。世間は with corona ですが、一方で発熱外来受診者は多く、年末年始の期間中は急遽研修医の応援も頼んで対応を強化するくらいでした。陽性妊婦さんの帝王切開もありました。陽性者用入院病床も増やして、もしかしたらこれからあるかも知れない「行動制限無し休暇」による感染増加に備えています。最近はまだ多くは報道されませんが、大小取り混ぜ多くの病院でクラスターは生じていて、この強い感染力を持ったウイルスを病院という砦では防ぎようも無くなっています。現在の大きな問題は、以前のように陽性患者さんの病床が不足する、ということではなくて、多くの病院でのクラスター発生による病床利用制限で一般患者さんの入院や退院に制約が生じる、ということです。むしろ、これまでで一番悪い状態かも知れません。そのせいで一般診療の遅延が生じてはならないと思っています。もし、院内での感染を懸念して気になる症状を病院で診てもらわずにいる方がおられたら、そこは是非、普通に診療を求めて早めにご相談いただければと思います。近くのコロナより、将来のもっと重症化する病気を怖れるべきです。

年に一度くらいは再確認をしておきたいのですが、熊本労災病院は、410床を有する、県南随一の基幹病院です。救急車の受け入れ台数は年間4000台を超え、小児から高齢者まで、多種多様な疾患に対応できる多くの診療科をもち、その中で医療者が互いに連携し、診療科の垣根低く一丸となってお一人お一人の患者様に対応しています。従来の、「最後の砦だけちょっとお高くとまった病院」、というイメージを払拭すべく、接遇の向上にも力を入れてきました。コロナ診療、ワクチン接種、八代市立椎原診療所の支援、災害訓練の拠点、振動病健診や「い草」じん肺の健診など、地域医療、災害医療、勤労者医療など広い役割を果たしています。外来待ち時間の長さなど、接遇とともになお改善途上ではありますが、

ご意見箱などの患者様の声も活かしながら日々励んでおります。患者様にお褒めの言葉をいただいた医療者を、月に一回表彰する制度も設け、これが、出る杭は打たれるではなくて、周囲を良い方向に巻き込むことを期待しています。また、何をしている病院かを、もっと解りやすくリアルタイムに発信すべく、HPの充実改編や、SNSの利用、くまろうだより（広報誌）などの発刊に力を入れています。

とはいえ、どうにもならないが、10年前の一部改築後に残された、手術室を含め東西棟などの古さです。増築の全貌が見え始めた熊本総合病院の横を通るたびに、その豪壮な外観にため息がでます。とりあえず手術室等の新築を検討中で、外科系の機能向上のみならず、全体的な診療スペースの拡大に伴う全科の診療環境改善につながると信じて、法人本部との交渉を継続中です。

冬至もとっくに過ぎ、これから日は長くなるばかりです。まさに初春の息吹を感じながら、『今年もがんばろう』と職員一同、決意を新たにしました。本年も、熊本労災病院をよろしく願いいたします。